

番号	1	令和6年度公共事業再評価調書		担当課名	農地整備課																							
事業名	農業農村整備事業			事業主体	静岡県																							
箇所名	にしうら 西浦みかんあしぼくりょう 足保久料			関係市町	沼津市																							
事業採択年度	平成26年度		計画期間	平成26年度～令和11年度																								
再評価理由	事業採択(H26)後10年間の経過した時点で継続中		工事着手年度	平成27年度																								
事業費 (百万円)	全体計画事業費	～R4年度	R5年度	R6年度見込	R7年度以降																							
	2,642	1,252	159	225	1,006																							
事業量	農道工 延長8,129m	2,714	432	543	4,440																							
	用水路工 延長5,334m	430	150	0	4,754																							
	鳥獣害防止柵工 延長6,600m	0	0	0	6,600																							
事業概要	(1)事業目的 本地区は、海岸線沿いの急峻な山間地に樹園地があり、農業生産条件は非常に悪い。このため、本事業により農道整備及び用水路整備を行い、営農条件が向上することで、農業経営を安定させ、担い手を支援することを目的としている。 また、鳥獣害防止柵を設置することで、被害の発生を防ぐ。 (2)事業内容 受益面積：98 ha 農道工：8,129 m 用水路工：5,334 m 鳥獣害防止柵：6,600 m																											
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 本地区は、古くからみかん栽培が盛んな地域であり、県東部地域の主要な産地である。高品質な「寿太郎みかん」ブランドの産地として、令和2年11月にGI登録され、農家の生産意欲も高く、「寿太郎みかん」を生かした加工品の開発が進んでいる。 また、ドローンを活用した薬剤散布の導入を検討しており、営農作業の効率化を図っている。 (2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和5年度時点) <table border="1"> <tr> <td>B/C (i=4%)</td><td>参考:B/C (i=2%)</td><td>参考:B/C (i=1%)</td><td>EIRR</td></tr> <tr> <td>1.4</td><td>1.7</td><td>2.0</td><td>7.9%</td></tr> </table> ・総便益(B) 40.6億円 (農道：34.6億円、用水路：3.8億円、鳥獣害防止：2.2億円) ・総費用(C) 30.0億円 (農道：26.6億円、用水路：2.7億円、鳥獣害防止：0.7億円) ○見込まれる効果(定性的な効果) 農道整備による走行経費の節減効果、用水路整備による営農経費の節減効果など (3)事業の進捗状況 (令和6年度見込み) <table border="1"> <tr> <th>区分</th><th>進捗率</th><th colspan="2">内 訳</th></tr> <tr> <td>事業費</td><td>61.9%</td><td colspan="2">(1,636百万円 / 2,642百万円)</td></tr> <tr> <td rowspan="2">事業量</td><td>農道工</td><td>45.4%</td><td>(3,689 m / 8,129 m)</td></tr> <tr> <td>用水路工</td><td>13.1%</td><td>(580 m / 4,440 m)</td></tr> </table>					B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	1.4	1.7	2.0	7.9%	区分	進捗率	内 訳		事業費	61.9%	(1,636百万円 / 2,642百万円)		事業量	農道工	45.4%	(3,689 m / 8,129 m)	用水路工	13.1%	(580 m / 4,440 m)
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																									
1.4	1.7	2.0	7.9%																									
区分	進捗率	内 訳																										
事業費	61.9%	(1,636百万円 / 2,642百万円)																										
事業量	農道工	45.4%	(3,689 m / 8,129 m)																									
	用水路工	13.1%	(580 m / 4,440 m)																									
事業の必要性	評価 継続が妥当																											
	【視点2】 今後の事業の進捗の見込み 幹線農道は全延長1,965mのうち837mが完成見込み、支線農道は全線6,164mのうち2,852mが完成見込みで12路線中6路線に着手している。先行していた海側の支線の整備が完了し、重機の進入路や営農車両の迂回路が確保できたこと等により、幹線農道の施工箇所を「2箇所→4箇所」に増やすことが可能となった。 また、支線農道の残路線のうち4路線は拡幅改良を伴わない安価な舗装改良であり、拡幅改良に比べ年間施工量が増加する。このため、年間施工量が「320m→880m程度」と見込まれることから、令和11年度に完了する計画である。 評価 継続が妥当																											
【視点3】	新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性 農道整備により発生した建設発生土を、窪地や谷側のみかん畑等の整地に有効利用することで、残土処分費の縮減と、ブロック積等の構造物の設置箇所の削減により、工事費のコスト縮減を図っている。																											
対応方針(案)	(1)対応方針(案) 本事業を【継続】する。 (2)理由 本事業により、通作や輸送の利便性が大幅に高まり、営農の効率化が図られている。また、用水路工の整備が進むことで、防除作業の効率化や、鳥獣害防止柵を設置することで、被害防止が図られる。受益者からは、「整備効果が出ている」等の事業推進に期待する前向きな意見が多数出ており、今後、更なる事業進捗が見込まれるため、事業を継続する。																											

費用対効果の分析資料

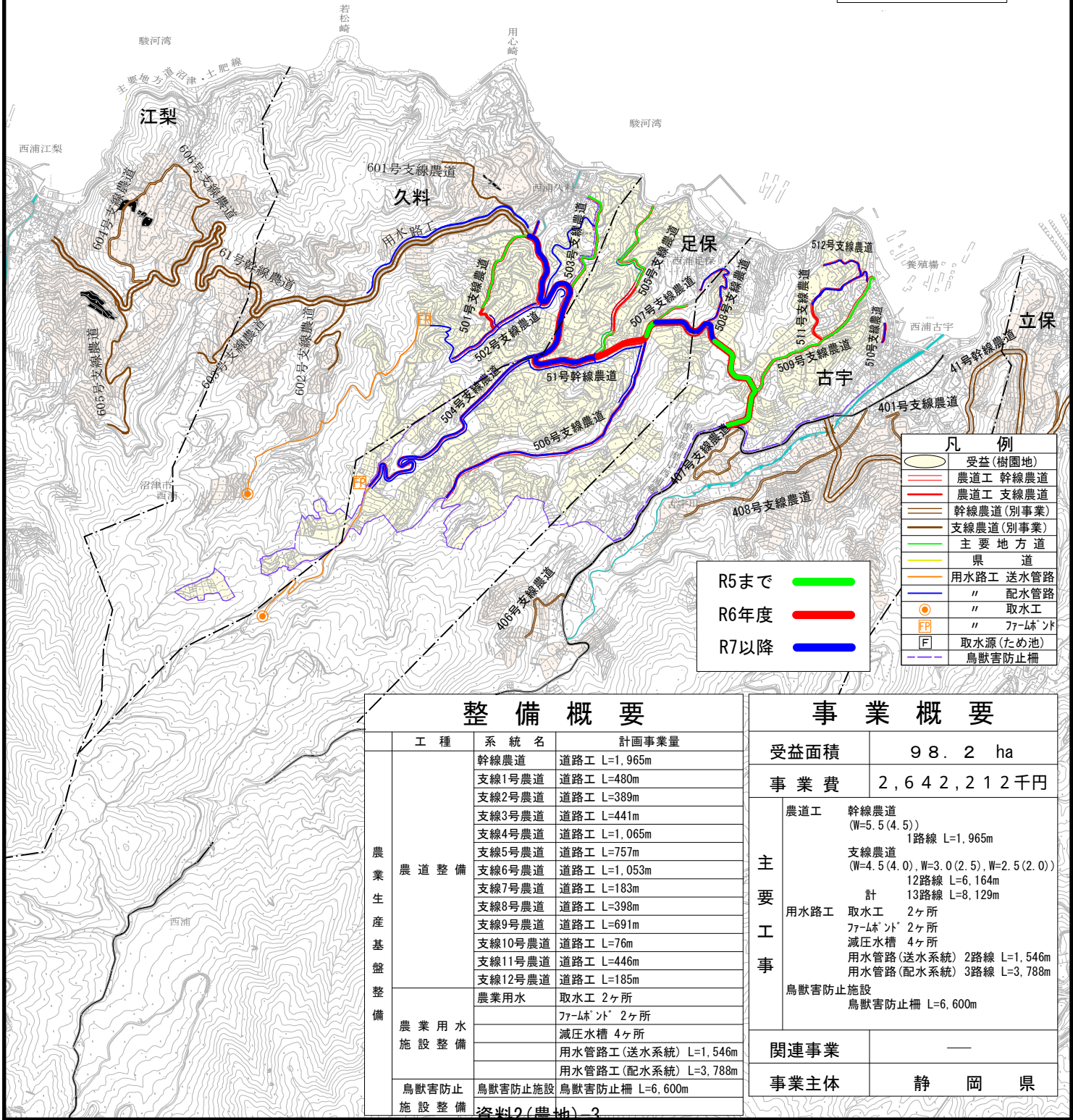
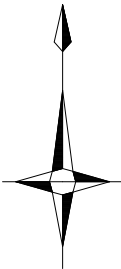
担当部課名 農地整備課

事業名		農業農村整備事業		地区名		西浦みかん足保久料（にしうらみかんあしほくりょう）	
総 便 益 額 の 内 訳	効 果 の 算 定						
	品質向上効果 農道整備により、悪路輸送による生産物（温州みかん等）の荷痛みが防止され、品質向上効果が発生する。						
	[便 益] = 270,199 千円						
	維持管理費節減効果 農道整備により、維持管理する施設の延長や面積が増量するため、新たな維持管理費が発生する。						
	[便 益] = △ 870 千円						
	営農に係る走行経費節減効果 農道整備による自宅から農地、農地から出荷場への距離短縮や走行速度向上により、走行経費の節減効果が発生する。						
	[便 益] = 3,187,348 千円						
	営農経費節減効果 用水施設整備による営農効率の向上等により、農作業時間の短縮効果が発生する。						
	[便 益] = 394,200 千円						
	維持管理費節減効果 用水施設整備により、維持管理する施設の延長や面積が増量するため、新たな維持管理費が発生する。						
	[便 益] = △ 9,741 千円						
	営農経費節減効果 鳥獣害防止柵整備により、有害鳥獣駆除に要する時間の短縮効果が発生する。						
	[便 益] = 3,994 千円						
	維持管理費節減効果 鳥獣害防止柵整備により、維持管理する施設の延長が増量するため、新たな維持管理費が発生する。						
	[便 益] = △ 2,518 千円						
作物生産効果 鳥獣害防止柵整備により、被害が防止され現況単収が増量するため、新たな作物生産効果が発生する。							
[便 益] = 196,613 千円							
国産農産物安定供給効果 鳥獣害防止柵整備により、国産農産物の安定供給効果が発生する。							
[便 益] = 17,735 千円							
総便益							
270,199 + -870 + 3,187,348 + 394,200 + -9,741 + 3,994 + 千円 -2,518 + 196,613 + 17,735 + 0 + = 4,056,960							
総 費 用 の 内 訳	総費用						
	①	事業着手時の資産価額	80,811	千円	（既施設の資産額を減価償却により整理）		
	②	当該事業費	2,713,480	千円	（当該事業で整備する施設費用）		
	③	関連事業費	0	千円	（当該事業に関連する施設の費用）		
	④	評価期間における再整備費	527,180	千円	（工事期間＋40年の評価期間内の再整備費）		
	⑤	評価期間終了時点の資産価額	319,040	千円	（工事期間＋40年の評価期間終了時の資産額）		
総費用＝①＋②＋③＋④－⑤							
3,002,431 千円							
総費用総便益比							
①総便益 4,056,960 千円							
②総費用 3,002,431 千円							
総費用総便益比 = 1.35							

農業農村整備事業

西浦みかん足保久料地区
計画一般図

縮尺 A2 1 : 10,000
A4 1 : 20,000



凡 例

	受益(樹園地)
	農道工 幹線農道
	農道工 支線農道
	幹線農道(別事業)
	支線農道(別事業)
	主要地方道
	県 道
	用水路工 送水管路
	" 配水管路
	" 取水工
	" フォームント
	取水源(ため池)
	鳥獣害防止柵

R5まで	
R6年度	
R7以降	

整備概要		
工 種	系 統 名	計画事業量
農 業 生 産 基 盤 整 備	幹線農道	道路工 L=1,965m
	支線1号農道	道路工 L=480m
	支線2号農道	道路工 L=389m
	支線3号農道	道路工 L=441m
	支線4号農道	道路工 L=1,065m
	支線5号農道	道路工 L=757m
	支線6号農道	道路工 L=1,053m
	支線7号農道	道路工 L=183m
	支線8号農道	道路工 L=398m
	支線9号農道	道路工 L=691m
	支線10号農道	道路工 L=76m
	支線11号農道	道路工 L=446m
	支線12号農道	道路工 L=185m
農 業 用 水 施 設 整 備	農業用水	取水工 2ヶ所
		フォームント 2ヶ所
		減圧水槽 4ヶ所
		用水管路工(送水系統) L=1,546m
鳥 獣 害 防 止 施 設 整 備	鳥獣害防止施設	鳥獣害防止柵 L=6,600m
	鳥獣害防止柵	鳥獣害防止柵 L=6,600m

事業概要	
受益面積	98.2 ha
事業費	2,642,212千円
主 要 工 事	農道工 幹線農道 (W=5.5(4.5)) 1路線 L=1,965m
	支線農道 (W=4.5(4.0), W=3.0(2.5), W=2.5(2.0)) 12路線 L=6,164m
	計 13路線 L=8,129m
	用水路工 取水工 2ヶ所
鳥 獣 害 防 止 施 設	フォームント 2ヶ所
	減圧水槽 4ヶ所
	用水管路(送水系統) 2路線 L=1,546m
	用水管路(配水系統) 3路線 L=3,788m
鳥獣害防止柵 L=6,600m	
関連事業	—
事業主体	静 岡 県

●社会情勢等の変化

【H24】西浦柑橘共選場の光センサー式糖酸分析器導入

【H29】「寿太郎みかん」の機能性表示認可

【R02】地理的表示（G I）保護制度登録



西浦柑橘共選場

「寿太郎みかん」ブランドを生かした加工品の開発



寿太郎みかんプレミアムゴールド



スイートレモネードジュース



西浦みかん寿太郎缶詰



イメージ図

ドローンによる
農薬散布の導入検討



援農ボランティア

JAによる援農ボランティアの募集

→ 人手の確保（リピーターも多い）

令和4年実績：延べ718名（R3実績：587名）

西浦みかん土地改良区が設立（R元年、組合員378名）

●事業の必要性等（農道、用水路）

＜農道工＞



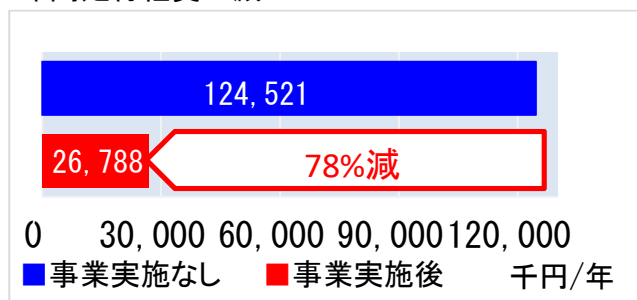
農道（既存）



幹線農道（51号幹線）の完成後



年間走行経費の減



＜用水路工＞

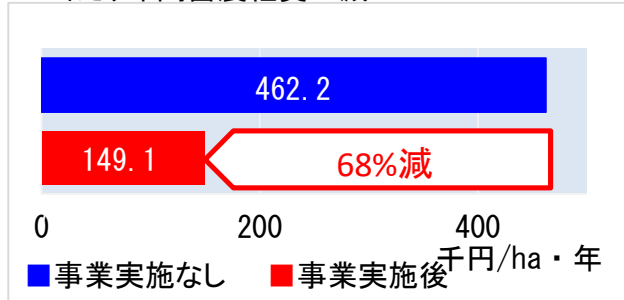


集落内の
給水スタンド
（実施前）



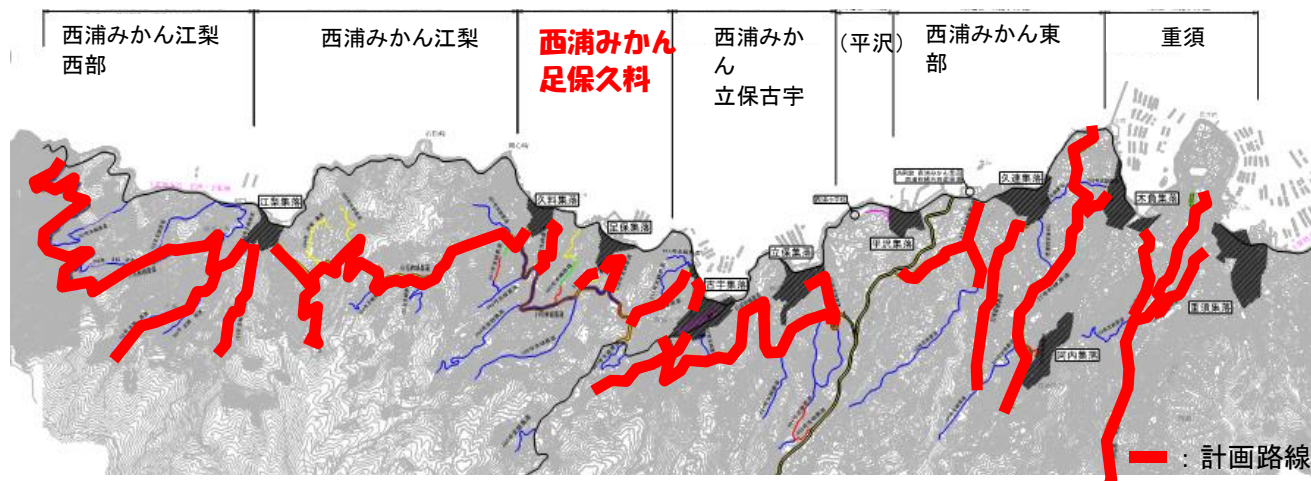
受益地内の
給水スタンド
（完成イメージ）

ha当たり年間営農経費の減



- ・ 移動時間（自宅→農地、農地→出荷場）の短縮
- ・ 防除における用水運搬の作業時間の短縮

●事業の必要性等（避難路として位置付け）



沿岸集落から樹園地がある高台までの支線農道及び幹線農道を「静岡県地震・津波対策アクションプログラム2023」の「避難路」に位置付け整備している。

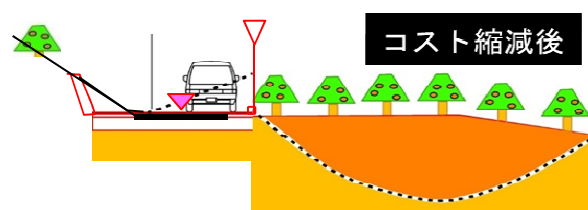
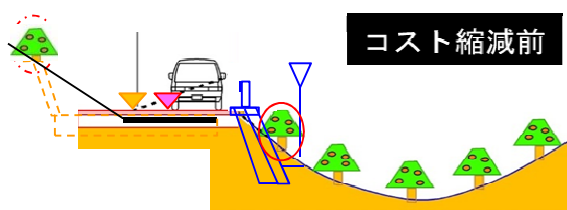


静岡県地震・津波対策 アクションプログラム2023	計画 (R5まで実績)	進捗率
6地区計	15,360m (8,927m)	58.1%
西浦みかん足保久料	1,725m (1,251m)	72.5%

●コスト縮減・代替案立案等の可能性

1 構造物施工費及び残土処分費の縮減

- ・中心線形の決定に当たり谷側へのシフトを選択
 - ・農道計画に隣接する畑のみかん改植のタイミングに合わせ、発生土の搬入整地と農道工事を同時実施
 - ① 構造物（谷側ブロック積、ガードレール）の設置箇所の削減
 - ② 残土処分費の縮減
- ※併せて道路に隣接した優良農地を生み出すことで、今後、農地集積の促進が見込まれる



4箇所計画（1箇所実施済）

①縮減額 約13.1百万円/箇所×4箇所 約52百万円の縮減

②縮減額 約49.4百万円/ha×2.1ha 約103百万円の縮減

計 約155百万円のコスト縮減

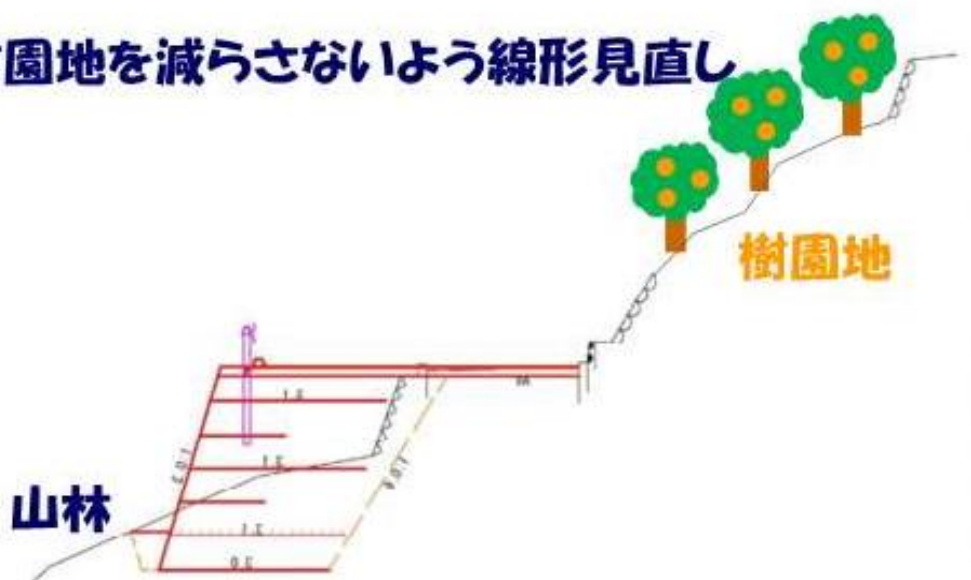
当初からの変更点・理由

項目	当初(H26)	今回(R6)	主な変更理由
①計画期間	H26～R05	H26～R11 (+6年)	補強土壁工の増や埋蔵文化財の本調査等に に伴い、完了年度を令和11年度まで延伸
②全体事業費	1,879百万円	2,642百万円 (+763百万円)	・補強土壁工の増、路床安定処理固化材の 工法変更による増 ・人件費の高騰、補償単価の見直しによる増

事業費の増額理由

- ・補強土壁工の数量増及び路床安定処理固化材を発塵防止型に変更（134百万円）
- ・委託費及び用地補償費にて、人件費高騰や補償単価の見直し等による増額（314百万円）
- ・物価変動による自然増（315百万円）

樹園地を減らさないよう線形見直し



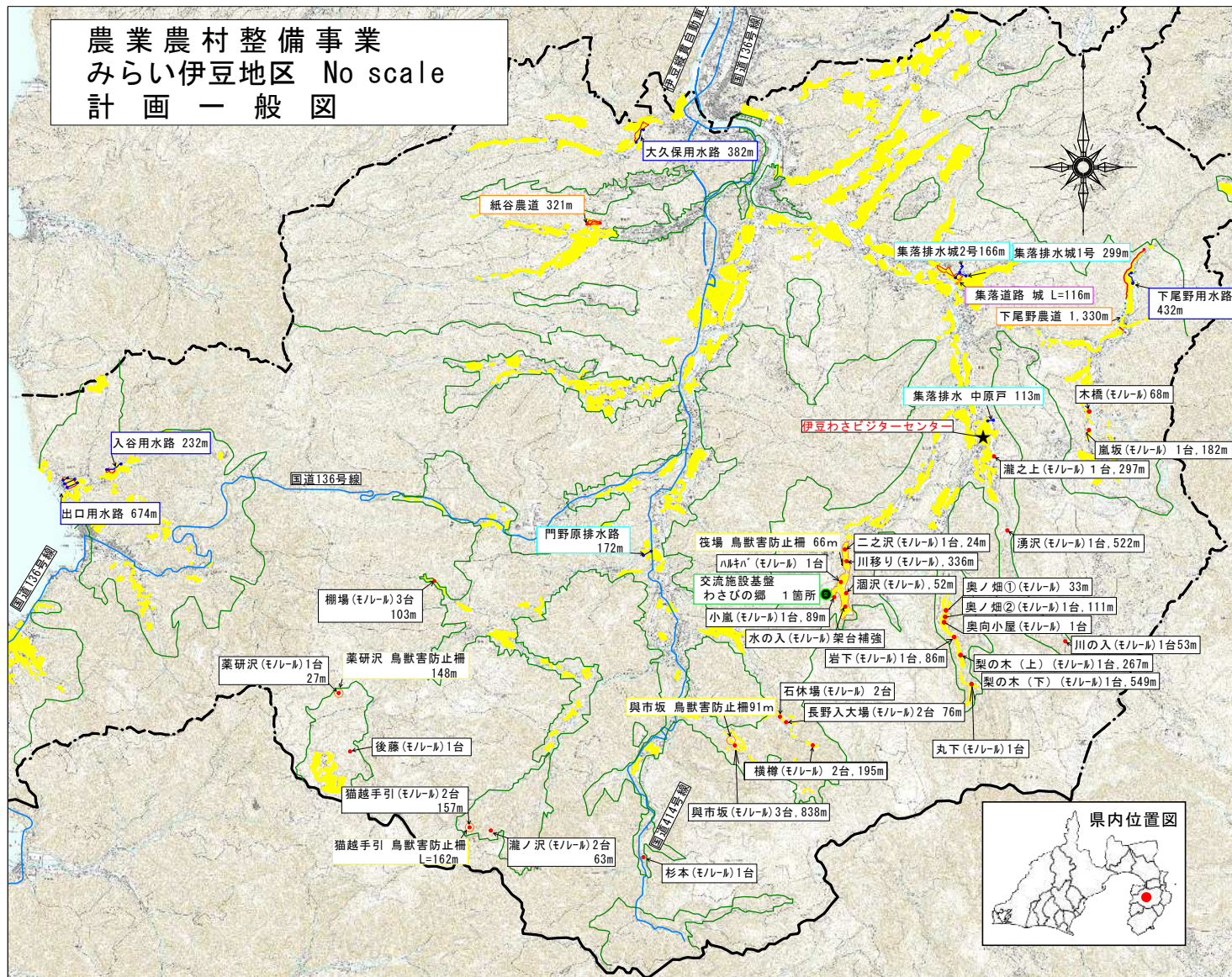
番号	2	令和6年度公共事業再評価調査				担当課名	農地保全課																						
事業名	農業農村整備事業				事業主体	静岡県																							
箇所名	みらい伊豆				関係市町	伊豆市																							
事業採択年度	平成26年度			計画期間	平成26年度～令和9年度																								
再評価理由	事業採択（H26）後10年経過			工事着手年度	平成26年度																								
事業費 (百万円)	全体計画事業費			～R4年度	R5年度	R6年度見込	R7年度以降																						
	1,261			828	5	50	378																						
事業量	農業生産基盤整備																												
	農業用排水	延長1,720m	1,720 m	-	-	-																							
	農道	延長1,651 m	533 m	15 m	120 m	983 m																							
	農道（モノレール）	延長4,128 m	4,128 m	-	-	-																							
	鳥獣害防止柵整備	延長 467 m	430 m	-	-	37 m																							
	農村生活環境整備																												
	農業集落排水	延長750 m	351 m	-	60 m	339 m																							
	農業集落道	延長116 m	100 m	-	-	16 m																							
	交流基盤施設	1箇所	-	-	-	1箇所																							
事業概要	(1)事業目的 本地区は、伊豆半島中央に位置する伊豆市全域を対象としている。山々に囲まれた地形から小規模に分散する急傾斜な農地が多く、農地の基盤整備の遅れから省力化や生産性向上が進まないことや、水田の用排水路の老朽化に伴う漏水などが問題となっている。また、農業集落においては、集落内の道路や排水路が未整備であることから、生活環境の向上が求められている。 このことから、営農条件の改善による省力化や付加価値の高い農業の展開と定住環境を改善するため、農業生産基盤整備と農村生活環境整備を一体的に実施するとともに、農業と観光業の連携促進を図ることにより地域全体を活性化することを目的とする。																												
	(2)事業内容 受益面積：54 ha（水田：20.1ha、わさび田：31.2ha、普通畑：1.5ha、樹園地：1.2ha） ・農業生産基盤整備：農業用排水 1,720m(6路線)、農道 1,651m(2路線)、農道（モノレール） 4,128m(28路線)、鳥獣害防止柵整備 467m(4箇所) ・農村生活環境整備：農業集落排水 750m(4路線)、農業集落道 116m(1路線)、交流基盤施設 1箇所																												
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 本地域の特産品である水わさびは、伝統的な畳石式のわさび田で栽培されており、2018年に「静岡水わさびの伝統栽培」として世界農業遺産に認定されたこともあり、わさび田の原風景の認知度が高まっている。水わさびは輸出量増加など国内外で需要が高まっており、単価についてもここ数年で2倍近く上昇している。本事業により農道（モノレール）が整備され、省力化が進んでいることから生産者の営農意欲は更に向上している。 また、本地域と東名高速道路をつなぐ伊豆縦貫自動車道の開通により交通のアクセスが向上し、農産物の流通だけでなく都市部からの観光客の増加に寄与している。自動車道の開通と併せて、道の駅「伊豆月ヶ瀬」が2019年12月に開業したことから多くの観光客が訪れ、わさび、お米、果樹及び農産物加工品等の直売による地産地消や観光と農業の連携が図られている。 更に、令和6年4月にはわさびの博物館機能、地域の観光案内機能、わさびの食体験機能を兼ね備えた「伊豆わさびビジターセンター」がオープンし、伊豆のわさびなどに関する様々な情報発信や都市農村交流の発展が見込まれる。																												
	(2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果（令和5年度時点） <table><thead><tr><th>B/C（i=4%）</th><th>参考:B/C（i=2%）</th><th>参考:B/C（i=1%）</th><th>EIRR</th></tr></thead><tbody><tr><td>3.3</td><td>3.8</td><td>4.2</td><td>6.0%</td></tr></tbody></table> ・総便益（B）77.4億円 ・総費用（C）23.3億円 ○見込まれる効果（定性的な効果） 農業生産基盤整備による農作業の効率化や農村生活環境整備による都市と農村の交流向上効果							B/C（i=4%）	参考:B/C（i=2%）	参考:B/C（i=1%）	EIRR	3.3	3.8	4.2	6.0%														
B/C（i=4%）	参考:B/C（i=2%）	参考:B/C（i=1%）	EIRR																										
3.3	3.8	4.2	6.0%																										
事業の必要性	(3)事業の進捗状況（令和6年度見込み） <table><thead><tr><th colspan="2">区 分</th><th>進捗率</th><th colspan="2">内 訳</th></tr></thead><tbody><tr><td colspan="2">事業費</td><td>70.0%</td><td colspan="2">（883百万円／1,261百万円）</td></tr><tr><td rowspan="3">事業量</td><td>農業生産基盤整備</td><td>87.2%</td><td colspan="2">農業用排水路(1,720m/1,720m)、農道(668m/1,651m) 農道(モノレール)(4,128m/4,128m)、鳥獣害防止柵(430m/467m)</td></tr><tr><td rowspan="2">農村生活環境整備</td><td>59.0%</td><td colspan="2">農業集落排水(411m/750m)、農業集落道(100m/116m)</td></tr><tr><td>0.0%</td><td colspan="2">交流基盤施設(0箇所/1箇所)</td></tr></tbody></table>							区 分		進捗率	内 訳		事業費		70.0%	（883百万円／1,261百万円）		事業量	農業生産基盤整備	87.2%	農業用排水路(1,720m/1,720m)、農道(668m/1,651m) 農道(モノレール)(4,128m/4,128m)、鳥獣害防止柵(430m/467m)		農村生活環境整備	59.0%	農業集落排水(411m/750m)、農業集落道(100m/116m)		0.0%	交流基盤施設(0箇所/1箇所)	
	区 分		進捗率	内 訳																									
事業費		70.0%	（883百万円／1,261百万円）																										
事業量	農業生産基盤整備	87.2%	農業用排水路(1,720m/1,720m)、農道(668m/1,651m) 農道(モノレール)(4,128m/4,128m)、鳥獣害防止柵(430m/467m)																										
	農村生活環境整備	59.0%	農業集落排水(411m/750m)、農業集落道(100m/116m)																										
		0.0%	交流基盤施設(0箇所/1箇所)																										
		評価	継続が妥当																										
【視点2】	今後の事業の進捗の見込み ・農業用排水路・農道（モノレール）：全路線完了。 ・農道：1路線完了。残る1路線は、全線用地買収済であり、計画的な工事進捗が見込まれる。 ・鳥獣害防止柵：3箇所完了。残る1箇所については、関係者との協議が整っており、計画的な工事進捗が見込まれる。 ・農業集落排水：2路線完了。残る2路線は、河川管理者との協議が整っており、計画的な工事進捗が見込まれる。 ・農業集落道：残区間は県道との接続部。県道及び河川管理者との協議が整っており、計画的な工事進捗が見込まれる。 ・交流基盤施設：伊豆わさびビジターセンターと連携した駐車場整備。整備方針が決定したため、今後は円滑な進捗が見込まれる。																												
			評価	継続が妥当																									
【視点3】 新たなコスト削減・代替案立案等の可能性	集落道整備において、県道及び河川の管理者と協議した結果、河川ルートを変更することにより仮設構造物が不要になるなど、約15,000千円のコスト削減が見込まれる。																												
対応方針（案）	(1)対応方針（案） 本事業を【継続】する。																												
	(2)理由 農業生産基盤整備及び農村生活環境整備の進捗により、営農条件の改善と生活環境の向上が図られていることから地域全体が活性化している。事業に対する地元の要望も高く協力的であり、今後の事業の進捗も見込めることから、事業を継続する。																												

費用対効果の分析資料

担当部課名 農地保全課

事業名	農業農村整備事業	地区名	みらい伊豆	(みらいいず)
総 便 益 額 の 内 訳	効 果 の 算 定			
	作物生産効果 農業用排水路の整備による用水の安定供給、鳥獣害防止施設の整備による作物被害の減により、作物増収の効果が発生する。 〔便 益〕＝ 431,803 千円			
	営農経費節減効果 農道整備により輸送効率の向上等により、農作業時間の短縮効果が発生する。 〔便 益〕＝ 40,002 千円			
	維持管理費節減効果 農業用排水路、農道、鳥獣害防止施設、集落排水施設、集落道などの整備により、維持管理する施設の延長や面積が増量するため、新たな維持管理費が発生する。 〔便 益〕＝ -354,742 千円			
	走行経費節減効果 農道整備により、自宅から農地、農地から出荷場への距離短縮や車両改善によって走行経費の縮減効果が発生する。 〔便 益〕＝ 6,742,172 千円			
	災害防止効果（農業資産） 集落排水施設整備により、農地への湛水被害の発生を最小限に抑制する。 〔便 益〕＝ 21,784 千円			
	農業労働環境改善効果 交流基盤施設整備により利用者の経費が軽減する。 〔便 益〕＝ 78,555 千円			
	災害防止効果（一般資産） 集落排水施設整備により、一般資産への湛水被害を最小限に抑制する。 〔便 益〕＝ 366,768 千円			
	維持管理費節減効果（農村の進行に関する効果） 集落排水施設整備、集落道整備により、草刈、土砂排除等の維持管理費が発生する。 〔便 益〕＝ -9,721 千円			
	生活環境向上効果 農業集落道の整備により、従来より道路幅が広がることで集落間を安全で快適に移動することが出来るため、生活環境が向上する。 〔便 益〕＝ 321,024 千円			
	国産農産物安定供給効果 農業用排水路整備、鳥獣害防止施設整備による農地や水利条件の改善により、国産農産物の安定供給が図れるため、国民が感じる安心感の効果が発生する。 〔便 益〕＝ 87,834 千円			
	災害防止効果（公共資産） 集落排水施設整備により、市道、県道、公共施設等への湛水被害の発生を最小限に抑制する。 〔便 益〕＝ 9,476 千円			
	都市・農村交流促進効果 わさび田見学、イベント等により都市部との交流を促進する。 〔便 益〕＝ 8,958 千円			
	総便益 431,803 + 40,002 + -354,742 + 6,742,172 + 21,784 + 78,555 + 千円 366,768 + △ 9,721 + 321,024 + 87,834 + 9,476 + 8,958 = 7,743,913			
	総 費 用 の 内 訳	総費用 ① 事業着手時の資産価額 33,310 千円（既施設の資産額を減価償却により整理） ② 当該事業費 1,446,478 千円（当該事業で整備する施設費用） ③ 関連事業費 千円（当該事業に関連する施設の費用） ④ 評価期間における再整備費 1,000,556 千円（工事期間＋４０年の評価期間内の再整備費） ⑤ 評価期間終了時点の資産価額 153,206 千円（工事期間＋４０年の評価期間終了時の資産額） 総費用＝①＋②＋③＋④－⑤ 2,327,138 千円		
総費用総便益比				
①総便益（Ｂ） 7,743,913 千円				
②総費用（Ｃ） 2,327,138 千円				
総費用総便益比（Ｂ／Ｃ） ＝ 3.32				

農業農村整備事業
みらい伊豆地区 No scale
計画一般図



工種	地区	路線	施工延長
農業用排水	大久保	1 路線	382 m
	下尾野	1 路線	432 m
	入谷	1 路線	232 m
	出口	3 路線	674 m
農業用排水 計		6 路線	1,720 m
農道	紙谷	1 路線	321 m
	下尾野	1 路線	1,330 m
農道 計		2 路線	1,651 m
鳥獣害防止	薬研沢	1 箇所	148 m
	猫越手引	1 箇所	162 m
	興市坂	1 箇所	91 m
	筏場	1 箇所	66 m
鳥獣害防止 計		4 箇所	467 m
集落排水	城	2 路線	465 m
	中原戸	1 路線	113 m
	門野原	1 路線	172 m
集落排水 計		4 路線	750 m
集落道	城	1 路線	116 m
集落道 計		1 路線	116 m
交流施設	わさびの郷	1 箇所	1 箇所
交流施設 計		1 箇所	1 箇所

工種	地区	運搬機	レール施工延長
農道 (モノレール)	(中伊豆地域)		
	二之沢	1 台	24 m
	川移り	0 台	336 m
	ハルキバ	1 台	- m
	瀧沢	0 台	52 m
	水の入	0 台	(架台補強) m
	奥ノ畑①	0 台	33 m
	奥ノ畑②	1 台	111 m
	岩下	1 台	86 m
	梨の木 (上)	1 台	267 m
	梨の木 (下)	1 台	549 m
	川の入	1 台	53 m
	湧沢	1 台	522 m
	小嵐	1 台	89 m
	奥向小屋	1 台	- m
	丸下	1 台	- m
	木橋	0 台	68 m
	嵐坂	1 台	182 m
	瀧之上	1 台	297 m
	(天城湯ヶ島地域)		
	瀧ノ沢	2 台	63 m
	薬研沢	1 台	27 m
	後藤	1 台	- m
	猫越手引	2 台	157 m
	杉本	1 台	- m
	興市坂	3 台	838 m
	長野入大場	2 台	76 m
	棚場	3 台	103 m
	横樽	2 台	195 m
	石休場	2 台	- m
農道(モノレール) 計		32 台	4,128 m

●事業効果の発現状況

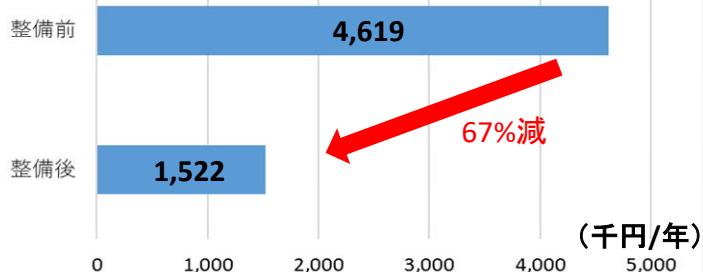
<農業生産基盤整備>

農道(モノレール): わさび田は、道路がない山間部奥地の急傾斜地に階段状に造成された農地が多く、農作業において資材や収穫物の運搬に支障をきたしている。モノレールの新設及び老朽化したモノレールの更新により、農作業の効率向上を図る。



【整備前】 徒歩による運搬
↓
【整備後】 モノレールによる
資材・収穫物運搬が可能
↓
運搬の速度向上
↓

資材・収穫物運搬にかかる経費の節減(1.23ha)

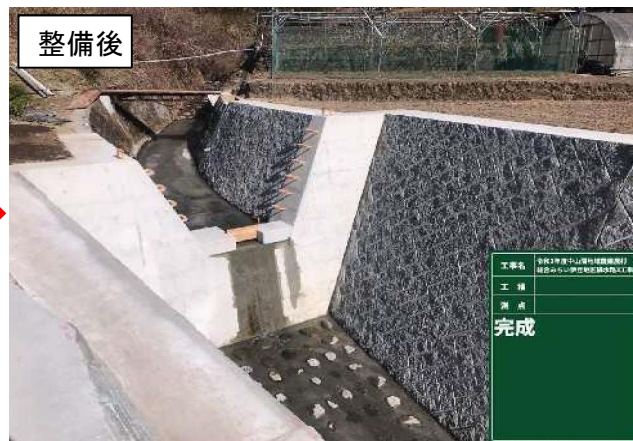


農道: 現道は狭小であり場所によっては人が歩く道程度しかなく整備が遅れている。農道の整備により、農作業の効率向上を図る。



<農村生活環境整備>

農業集落排水施設: 老朽化した排水路の整備を行い、周辺住宅地や農地への浸水被害防止を図る。



●事業を巡る社会情勢等の変化

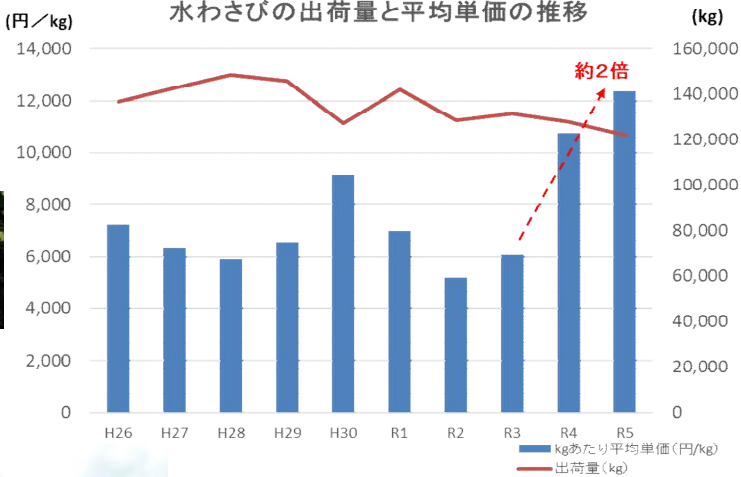
2018年に「静岡水わさびの伝統栽培」として世界農業遺産に認定され、わさび田の景観や収穫体験を目的に多くの都市住民が訪れている。近年、水わさびの輸出量増加など国内外の需要も伸びており、単価についても約2倍に上昇している。



置石式のわさび田



都市住民との交流
(わさび収穫体験)



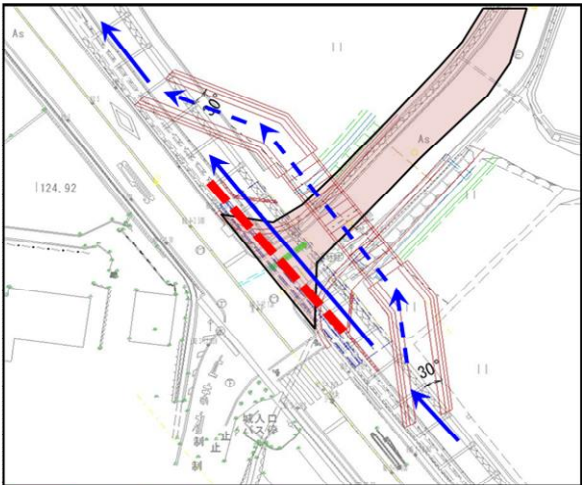
2024年4月伊豆わさびセンターがオープンし、本事業で整備を行う交流基盤施設との連携が期待されている

●新たなコスト縮減・代替案・立案等の可能性

○集落道： 高額な仮設鋼矢板を不要にする設計に変更



- 河川ルートの変更により
- ・仮設鋼矢板の施工が不要
 - ・交通規制が不要
 - ・将来の維持管理も容易な構造に



- 集落道 計画範囲
- 現況の河川
- ルート変更後の河川
- 設置不要となる仮設鋼矢板

本設計のコスト縮減額
約15,000千円

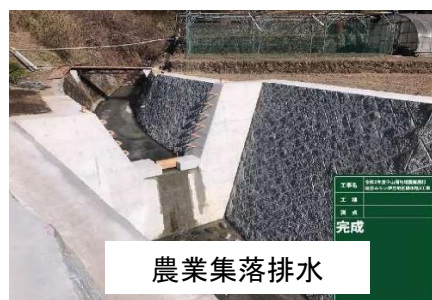
前回からの変更点・理由

項目	当初(H26)	今回(R6)	主な変更理由
①計画期間	H26～R1	H26～R9 (+8年)	全体事業費の増額及び河川協議・交差点協議の長期化により、完了年度を令和9年度まで延伸
②全体事業費	952百万円	1,261百万円 (+309百万円)	・農業集落排水路の工法変更等による増 ・農業集落道の函渠部基礎の地盤改良追加等による増

事業費の増額理由

- ・農業集落排水路の河川協議に伴う工法変更等による増額(81百万円)
- ・農業集落道における河川横断函渠部基礎の地盤改良追加及び河川協議に伴う函渠断面の変更による増額(125百万円)
- ・物価変動のための自然増(103百万円)

農業集落道 河川横断函渠部



河川協議により、落差工の追加、既設護岸の改修範囲を変更



ボーリング調査の結果、地盤が悪いので地盤改良を追加、河川協議により函渠の断面を変更

